

<本会議討論>

議案第38号 令和2年度大府市一般会計補正予算(第5号)

ですが、市民や事業者へ急いで新型コロナウイルス感染症対策を行う内容である補正予算総額11億3389万9千円の中には、市独自で令和3年4月1日までに生まれた子ども一人10万円の給付・小中学校の給食、9月までの3か月分の無償化・10万円までの直売所等応援補助金などがあり、補正予算全般について賛成いたします。

・次に意見を申し上げます。

①

◆今、学校再開に向けてクラスを二つに分けて登校するなどの準備が進められています。3密を避け感染予防への配慮、子どもたちの学習面、心身などこれまでにまして配慮が必要になるなどこれまでと違う学校生活となることは明らかです。個々への細かい対応と教員の多忙化改装のため、「少人数学級」を検討していく時期ではないかと考えます。

②

◆3款 民生費 高齢者生活支援事業 ひとり暮らし高齢者等への配食サービスについて、買い物や調理が困難な方が対象なため、申請することも困難な中、必要な世帯には申請書を持って対象者の自宅へ伺い、聞き取りをして、申請書を記入してもらうなどの対応をしているとのこと、引き続き市民に寄り添う姿勢で今まで以上に意識して行っていただきたいと思えます。

今回の配食サービスの拡充は、現在、夕食の実費分を市民が負担し、大府市が配達料を負担しています。対象者は夕食の配食サービスを受けている89人で、その対象者が必要であれば昼食も頼めるという内容です。その半分の45の方が追加で昼食を3か月頼んだという予算が今回の補正です。

◆対象者を増やすという点で拡大する必要があると考えます。

例えば、一食の価格を抑える補助を行えば、食費の負担を考えて利用できなかった新規の市民が増え、新たな見守りの拡大となります。比例して、価格の補助が出るなら新たな事業者が手を挙げることができれば、さらなる事業者への支援にもつながります。

ぜひ、だれもが利用できるよう実費への負担軽減も検討するべきです。

◆最後に市内ではありませんがコロナ感染症の影響を受けた事例を紹介します。

80歳の独身で近くに身寄りがなく、ウツの症状も持つ一人暮らし、車の運転が怖くなり、総菜や弁当などの日々の買い物を80歳の知人に頼んでいたが、コロナの影響や体調不良で

知人が通えなくなり、知人の話では約一か月がたってしまった。

独身の80歳の方のおうちの冷蔵庫は空っぽ、唯一あるお米を何とか研いで炊く準備はしていたが、転倒し動けなくなった。

そのまま一晩 明けてしまい、やっとの思いで充電のなくなりかけた携帯電話をつかみ、遠方に住むめいへ電話。ろれつが回らない声で連絡し、一命をとりとめた。

本人いわく、5日間食事をとっていないというが、別人のように痩せ、脱水症状で入院。現在自立して歩けるようリハビリを行っています。

自粛のため、少ない人間関係が遮断されるなど、外からでは気づかないことが現実には起こっています。コロナ感染症の影響によって「孤独死」をさせない、そのための支援の一つが「ひとり暮らし高齢者への配食サービス」です。体の栄養と同時に大府市からの温かい声掛けなどの心の栄養、そして、命をつなぐ事業の一つとして期待することを意見とし、補正予算に賛成いたします。 以上